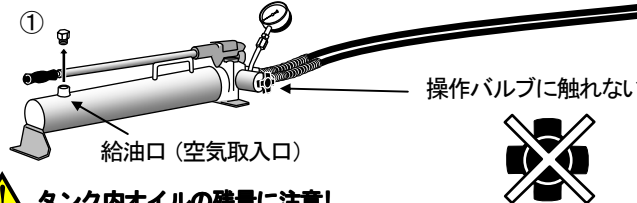
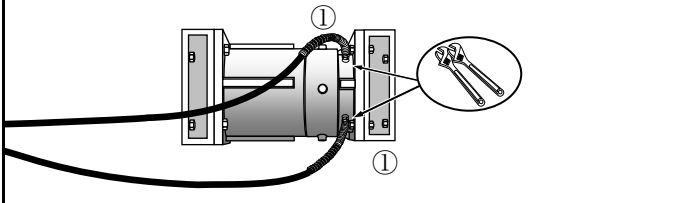
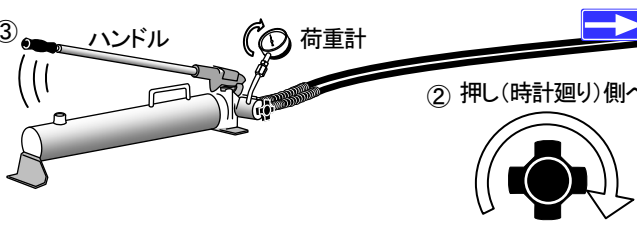
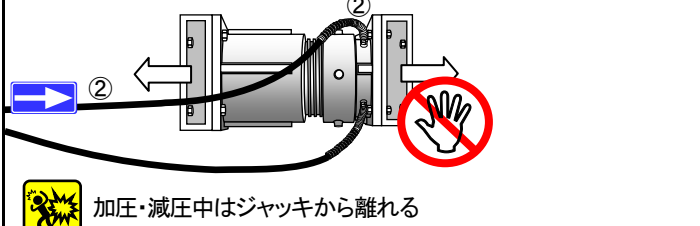
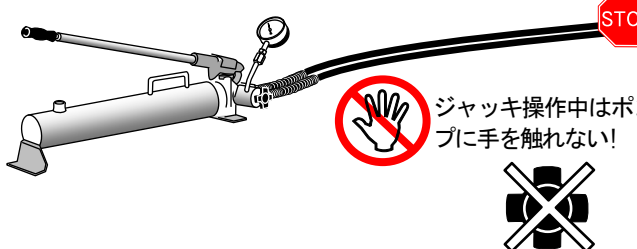
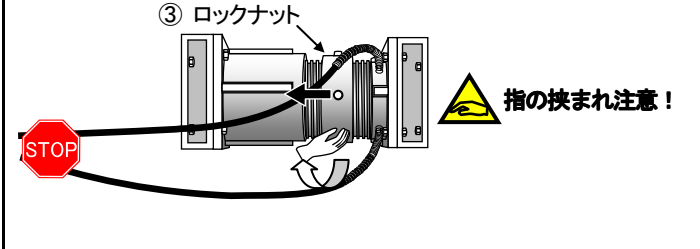
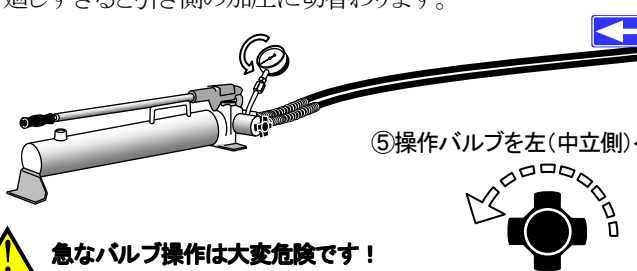
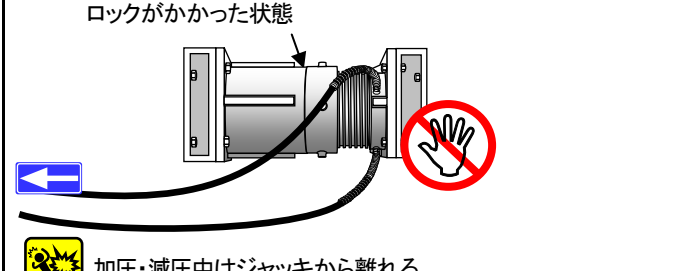
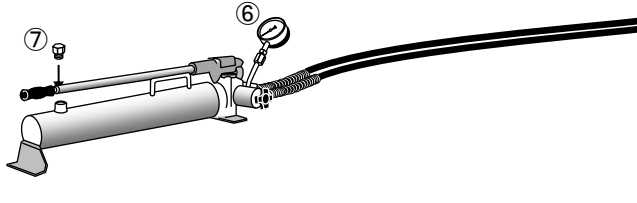
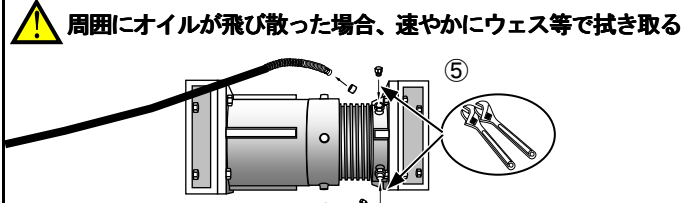
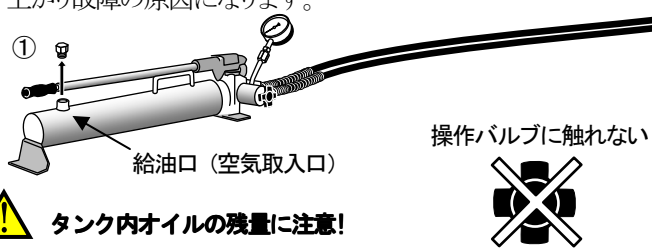
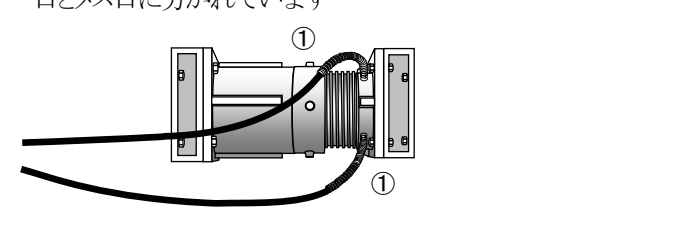
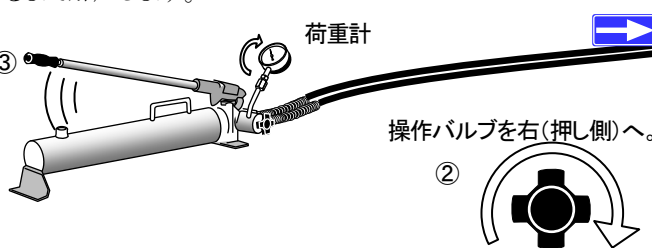
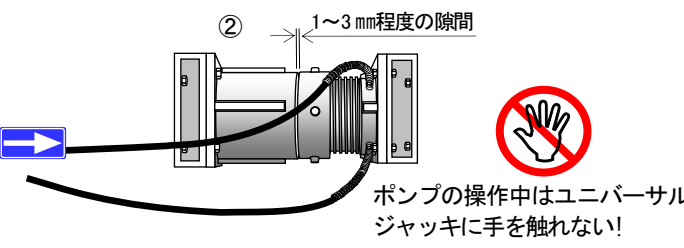
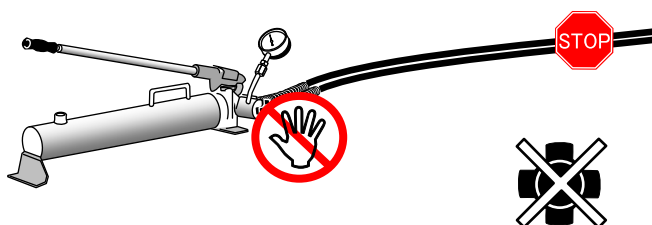
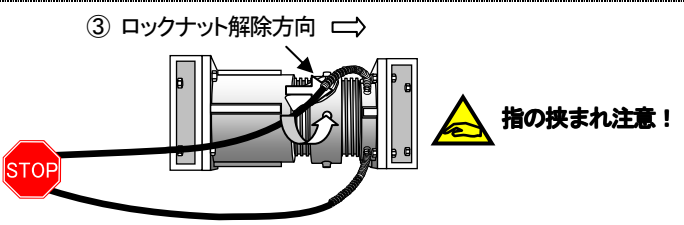
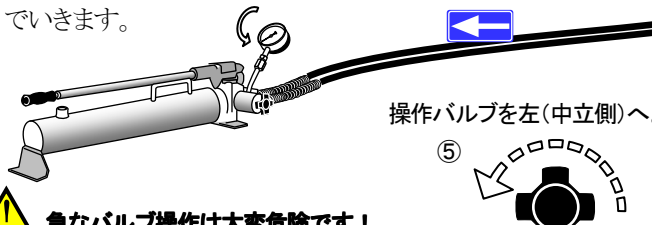
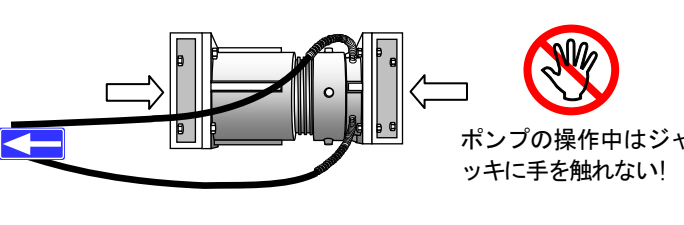

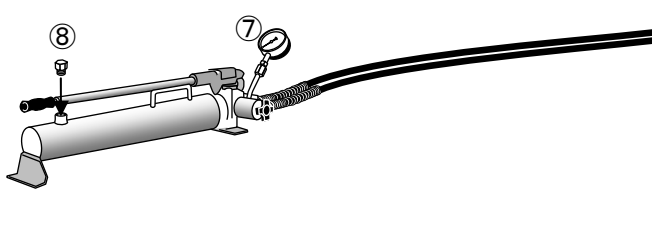
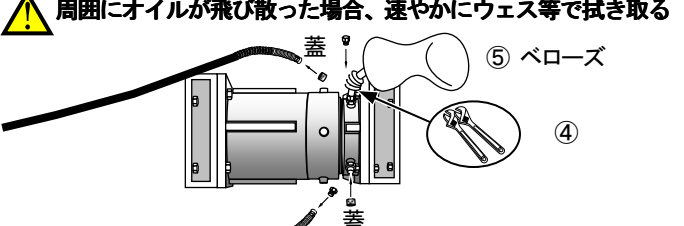


# 復動 ( DN-type ) 加圧

手動ポンプ ( DP-4L )	手順	ユニバーサルジャッキ ( DN型 )
<p>① タンク給油口の蓋 (六角プラグ) をゆるめ、タンク内部に空気が入るようにします。</p> <p>※ 給油口の蓋を閉めたまま操作をしますとタンク内圧が上がり故障の原因になります。</p>  <p>① 給油口 (空気取入口)</p> <p>操作バルブに触れない</p> <p><b>⚠ タンク内オイルの残量に注意!</b></p>	<p>1. 加圧準備 (配管)</p>	<p>① ジャッキの注油口の蓋を外し、手動ポンプの高圧ホースを押し側と戻し側に其々つなぎます。</p> <p>※ 高圧ホースの口はジャッキの注油口に合うようにそれぞれオス口とメス口に分かれています。</p> 
<p>② 操作バルブを押し側 (時計回り) へ廻します。</p> <p>③ 荷重計の値を見ながら所定の加圧量又は、ストローク量になるまでハンドルを動かします。</p>  <p>③ ハンドル</p> <p>荷重計</p> <p>② 押し (時計回り) 側へ。</p>	<p>2. 加圧</p>	<p>② ジャッキ内部にオイルが送り込まれ、ジャッキのストローク (ネジ部) が伸びます。</p>  <p><b>⚠ 加圧・減圧中はジャッキから離れる</b></p>
<p>④ 所定の加圧量又は、ストローク量に達したら手動ポンプの操作を中断します。</p>  <p>STOP</p> <p>ジャッキ操作中はポンプに手を触れない!</p>	<p>3. ロック ① (ストローク) 量維持</p>	<p>③ 手でロックナットを、胴体側まで廻し、締めます。</p> <p>(※ 下図では、左方向へ)</p>  <p>③ ロックナット</p> <p>STOP</p> <p><b>⚠ 指の挟まれ注意!</b></p>
<p>⑤ ジャッキをロックしたら、操作バルブを少しずつ中立 (反時計回り) 側に廻し、圧力を抜いていきます。</p> <p>※ 廻しすぎると引き側の加圧に切替わります。</p>  <p>⑤ 操作バルブを左 (中立側) へ。</p> <p><b>⚠ 急なバルブ操作は大変危険です!</b></p>	<p>4. ロック ② (ストローク) 量維持</p>	<p>※ 高圧ホースがたるみ始め、高圧ホース内の圧力が抜けて行くのがわかります。</p> <p>ロックがかかった状態</p>  <p><b>⚠ 加圧・減圧中はジャッキから離れる</b></p>
<p>⑥ 圧力計の値が "0" になったことを確認してから高圧ホース解体作業に移ります。</p> <p>⑦ タンク給油口の蓋 (六角プラグ) を閉めます。</p>  <p>⑦</p> <p>⑥</p>	<p>5. 配管解体 (片付け)</p>	<p>④ 圧力が抜けきったらスパナで注油口から高圧ホースを外します。</p> <p>※ 高圧ホース内には残圧があるので、少しずつゆるめ圧力を逃がしながら行います。</p> <p>⑤ ジャッキの注油口と高圧ホースに蓋をします。</p> <p><b>⚠ 周囲にオイルが飛び散った場合、速やかにウェス等で拭き取る</b></p>  <p>⑤</p> <p>⑥</p>

# 復動 ( DN-type ) 減圧

手動ポンプ ( DP-4L )	手順	ユニバーサルジャッキ ( DN型 )
<p>① タンク給油口の蓋 (六角プラグ) をゆるめ、タンク内部に空気が入るようにします。 ※ 給油口の蓋を閉めたまま操作をしますとポンプのタンク内圧が上がり故障の原因になります。</p>  <p>① 給油口 (空気取入口) 操作バルブに触れない</p> <p><b>⚠ タンク内オイルの残量に注意!</b></p>	1. 配管	<p>① ジャッキの注油口の蓋を外し、手動ポンプの高圧ホースを押し側と戻し側に其々つなぎます。 ※ 高圧ホースの口はジャッキの注油口に合うようにそれぞれオス口とメス口に分かれています</p>  <p>①</p> <p>ポンプの操作中はユニバーサルジャッキに手を触れない!</p>
<p>② 操作バルブを押し (時計回り) 側へ廻します。 ③ ハンドルを操作し、ジャッキのロックナットが手で廻せるようになるまで加圧します。</p>  <p>② ③ 荷重計 操作バルブを右 (押し側) へ。</p> <p>2. 加圧</p>	2. 加圧	<p>② ジャッキが受ける外力を超えると、ロックナットがゆるみ、手で廻せるようになります。</p>  <p>② 1~3mm程度の隙間</p> <p>ポンプの操作中はユニバーサルジャッキに手を触れない!</p>
<p>④ 手動ポンプの操作を中断します。</p>  <p>3. ロック解除</p>	3. ロック解除	<p>③ 手でロックナットを注油口側まで廻し、戻します。 (下図では右方向)</p>  <p>③ ロックナット解除方向 ⇨</p> <p>指の挟まれ注意!</p>
<p>⑤ 操作バルブを徐々に中立 (反時計回り) 側に戻します。 ⑥ ジャッキ内のオイルがポンプに戻り、ジャッキのストロークが縮んでいきます。</p>  <p>⑤ ⑥ 操作バルブを左 (中立側) へ。</p> <p>4. 減圧</p> <p><b>⚠ 急なバルブ操作は大変危険です!</b></p>	4. 減圧	<p>※ ジャッキ、調整材、切梁等がボルトで接続され、減圧に依る落下が起きないことを確認して下さい。</p>  <p>ポンプの操作中はジャッキに手を触れない!</p>
<p>中立 (減圧)</p>  <p>引き側 (反時計回り) へ。 押し側 (時計回り) へ。</p>		<p>※ DN-type は復動式ですので操作バルブを引き側に切り替えて強制的にジャッキを縮めることができます。 50KN (5ton) 以内で使用して下さい。</p>
<p>⑦ 圧力計の値が"0"になったことを確認してから配管解体作業に移ります。 ⑧ タンク給油口の蓋 (六角プラグ) を閉めます。 ※ 戻ったオイルがタンクの給油口から溢れ出ることがあります。必要に応じタンク内のオイルを抜き取って下さい。 ⑨ ホース先端に蓋を付けます。</p>  <p>⑧ ⑨</p> <p>5. 減圧・配管解体 (片付け)</p>	5. 減圧・配管解体 (片付け)	<p>④ 圧力が抜けきったら注油口から高圧ホースを外します。 ※ 高圧ホース内には残圧があるので、少しずつゆるめ、圧力を逃がしながら外します。 ⑤ ジャッキの注油口に空気を抜いたベローズ (残油受) をスパナで締め、取付けます。不要であれば蓋を取付けます。</p> <p><b>⚠ 周囲にオイルが飛び散った場合、速やかにウェス等で拭き取る</b></p>  <p>④ ⑤ ベローズ</p>